

令和7年度 地域総がかりで行う不登校児童生徒支援事業

<p>事業名 みんなで考えよう！ふくおか不登校支援カンファレンス</p>
<p>期 日 令和8年1月30日（金）</p>
<p>参加者 238人</p>
<p>趣 旨 県内の不登校児童生徒を支える全ての人が一堂に会し、県内の不登校の現状や課題を知るとともに、地域総がかりで不登校の問題を解決していこうとする機運を高める。</p>
<p>活動の様子</p>
<p>【講話】「不登校の現状と課題」</p> <p style="text-align: right;">国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 副センター長・総括研究官 宮古 紀宏 氏</p>  <p>最新の調査研究に基づいた「不登校の現状と課題」についてご講話をいただきました。国の施策の方向性を再確認するとともに、不登校の背景にある多岐にわたる要因や、地域と学校の連携の重要性等、各立場で大切にすべき視点を整理する貴重な機会となりました。</p> <p>参加者からは、「こどもを支援してくださる方々と共有したい情報だった。こども真ん中に、大人との対話を通して相互理解を進めることが必要だと思った」や「研究成果から、児童、保護者、学校の思いの違い等が明らかになり、興味深かった」などの感想をいただきました。</p>
<p>【トークセッション】「未来を担うこどもたちのために ～トップアスリートと教育者が語る！不登校児童生徒支援～」</p>
<p>登壇者：福岡ソフトバンクホークス球団統括本部付アドバイザー 和田 毅 氏 登壇者：福岡県立大学理事・看護学部教授 松浦 賢長 氏 ファシリテーター：教育庁教育振興部社会教育課主幹社会教育主事 松井 淳</p>
 <p>福岡ソフトバンクホークスの元選手であり、現在は球団アドバイザーとしてご活躍の和田毅氏と福岡県の教育委員であり、福岡県立大学理事・教授の松浦 賢長氏を登壇者に迎え、福岡県教育庁の松井 淳主幹社会教育主事の進行のもと、スポーツ・教育・行政が交差する対話を通じて、支援のヒントを探っていました。</p> <p>参加者からは、「こども主体に考えることの大切さや、困難や悩みから立ち上がった時に自己肯定感が生まれることを理解することができた」や「職種連携の時代で教育関係者だけで課題を考えるのではなく、多様な視点で考えるためにもよかった」などの感想をいただきました。</p>

【テーマ別熟議Ⅰ・Ⅱ】

テーマ① よりよい居場所の運営

NPO 法人箱崎自由学舎えすぺらんさ代表

小田 哲也 氏

テーマ② 家庭や保護者の支援のあり方

不登校保護者支援・えがおの会代表

杉浦 しのぶ 氏

テーマ③ 子どもの心によりそった支援のあり方

NPO 法人みんなの学び館顧問

福永 宅司 氏

テーマ④ 切れ目のないネットワークの構築（学校・地域・福祉）

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会副会長

高口 恵美 氏

【実践発表の様子】



【円卓会議の様子】



現場の最前線で活動されている小田哲也氏、杉浦しのぶ氏、福永宅司氏、高口恵美氏の4名をお迎えし、前半と後半の2回展開で、テーマ別熟議を行いました。参加者は、4つのテーマのうち2つを選び、実践者の生の声を通じて具体的な支援のヒントを共有することができました。

実践発表後は6人程度のグループに分かれ、円卓会議を行いました。テーマに沿って、一人ひとりが「自分に何ができるか」を様々な立場の方と語り合いました。やり取りの中で、新たな情報や気づき、市町村をこえたつながりを得る場となりました。

参加者からは、「県内の不登校児童生徒支援についての情報を得ることができ、非常に有意義だった」や「自身のこれまでの取り組みを再確認でき、励みになった。また明日から頑張りたい」などの感想をいただきました。

参加者の声

- 大変有意義な会だった。各団体、各自治体のよさ、抱えている課題もわかり参考になった。
- 自分の考えと似ている人、違う人、支援する側も考え方は多様だったが、こどもに寄り添うという基本的な考え方は一緒で、どれが正解などはないと感じた。
- 不登校に対する自らの認識を変える必要があることに気づかせてもらう、とても深い学びができた。社会全体が不登校に対して認識を変えていく必要があるとともに、多様な学びの形の創出が必要だと感じた。参加して本当によかった。